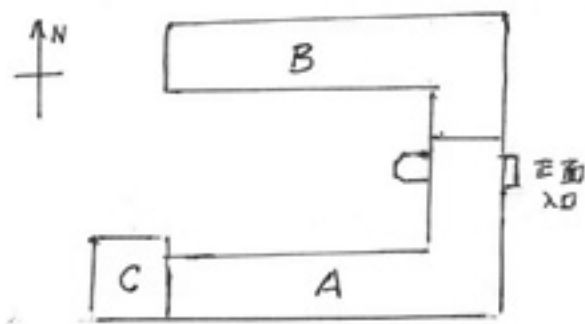


数学教室の建物の^{へんせん}変遷

楠 幸男

京都大学は明治30年（1897年）に理工科大学として発足し、数学の講座は当初2つあった。そして数学科は本部構内の正門を入った左手にある煉瓦造りの2階立の建物に物理学科と同居していた。昭和3年（1928）市電東山線が熊野から百万遍まで延長され運転が始まって物理学実験に影響を受けるようになったので物理学科は昭和5年頃北部構内のほゞ現在位置に移転した。数学科も静かな北部構内の現在位置に昭和9年（1934）10月、3階建の新館が落成し移転することとなった。これで名実ともに数学科は独立した数学教室をもつことになった。



左図は現在の数学教室の平面（略）図である。

図のAの部分が上記の新館である。この建物は内部を含めて重厚であり、欧米の有名大学にひけをとらないと思われる。特徴として、一階の教室に通ずる廊下が中庭に出られるようにした回廊式になっている。

図Bの部分（3階建）は最初、地球物理教室用に昭和32～33年に増築され1階部分は数学教室が使用していたが、地球物理学教室と宇宙物理学教室が一緒に入る5階建の建物がBの北側に新築されたので数学教室がB全部をつかうことになった。図Cの部分は新制大学になって定員増や大学院の拡充のため昭和42年、5階建ての建物として増築された。

（付記） 数学教室の正面入口の左側の柱に「数学教室」とかいた青銅版についてこの達筆は、小堀先生の話によれば河合十太郎教授の手紙の中にある文字をさがし用いたということである。なお河合十太郎（1865—1945）は数学教室の最初の名誉教授である。

参考図書

- (1) 京都帝国大学史 昭和18年（1943）
- (2) 京都大学七〇年史 昭和42年（1967）
- (3) 日本の数学100年史（上）1983,（下）1984, 岩波書店